

降誕

こうたん



また、5月21日は、淨土真宗をお開きくださった親鸞聖人のお誕生日。聖人は、承安三年（一二三三）のこの日に京都郊外「日野」の里に誕生したと伝えられています。この日、毎年、京都のご本山では盛大莊嚴なご法要が勤まりますし、期間中、聞法会館その他あらゆる施設で講演・法話の会が催される外、能舞台では金剛流の能が演じられます。また、関係学校からの華やかな奉納行事もいくつあります。

さて、その降誕の「誕」、世に言う誕生日の「誕」という字を、辞書で調べてみて驚きました。

「誕」タンとは、「偽り・欺く。おおげさにデタラメを言う」。説文系・白川系、どちらもほぼ同じ解説であります。

お釈迦さまにしろ、親鸞さまにしろ、その降誕の意味はどこにあるのか。

4月8日は、お釈迦さまがお産まれになつた日。お釈迦さまの誕生日。

古代インドの人達は、すべてブラフマン（梵・梵天）に支配統理されていました。かれらの「永遠に生きる道」は、その梵と一体になること。「梵我一如」。それが出来るお家柄がバラモンであつた。その道のたどれないおおくの人びとは、スートラであり、セングラであつた。神（梵）の救いにも差別饑別があつた。神それに対したお釈迦様は、「一如眞実の縁起の法」を掲げた。だれでもどこでもいつでも一如平等に通貫する「縁起」に生きよと説いた。すべてのものは「縁て起こつてゐる」。一つの原因・あるものの力に左右されているのではない。不可思議な因縁のなかで生かされているいのちの眞實に目覚めよう。嘘・偽り。でたらめな世間にありながら、自我の蛇の皮を脱ぎ捨て脱ぎ捨てて、犀の角のごとくひとり歩めとおしえたのがお釈迦さまでした。

次に親鸞さま。お生まれになつた時代は、仏教全盛の時代と歴史家は言うかもしれない。奈良南都に六宗が栄え、京都には天台・真言が興つていた。しかしそれらは「鎮護国家」の政治的宗教、「山岳仏教」といわれて一般庶民に背をむけた「学問仏教」でしかなかつた。世間の荒波に放り出された民衆は、いかがわしい神仏に願をかける「祈祷仏教」に追いやられていた。

煩惱愚足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、皆もつて、そらごと・たわごと・まことあることなきに、ただ、念仏のみぞまことにておわします。

(歎異鈔)

無明の大闇をさまよい歩くわたし。憤惱の棘林(へばるはなし)に心身繫縛されてゐるわたし。そのわたしをめあてに、永遠の彼方から呼んでいて下さつた「南無阿弥陀仏」の如来の本願力にともにめざめようではないかと、この世に降りたつてくださいました。

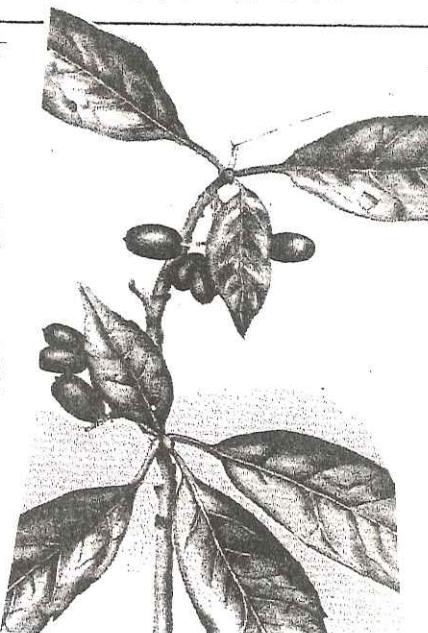
親鸞さま「降誕」(五月二十一日)を「共に同心に」お祝い致しましょう。

出石組主催「念佛奉仕団」は、
五月一十一日（木）～二十一日（金）
全国各地からお参りの念佛者のみなさま
と身も心もかるやかに奉仕作業を致しま
しょう。

参加者は希望のかたは至急勝林寺まで。

念佛奉仕團

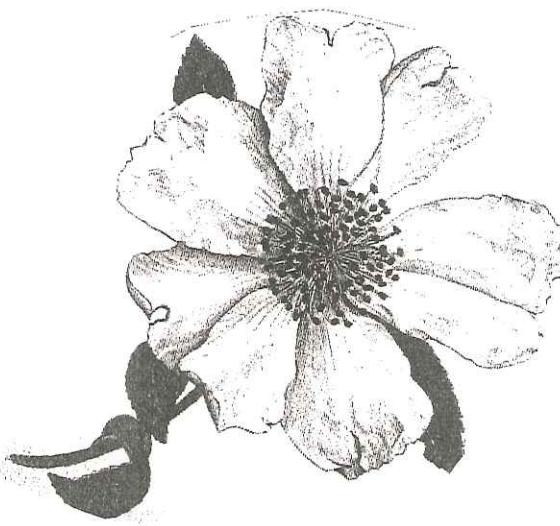
参加しよう



葬儀

西岡	四月八日	渋谷	四月三日	はる	唐川	平野	三月二十八日	国政	松ヶ枝
柱子	町分さま				さま				さま
五十一年歳		九十四歳				七十八歳			

五月のこよみ



二日(金)	朗誦ボランティアあすなろ
三日(土)	憲法記念日 別院定例
四日(日)	湯口 勇雄さま一周忌法事
五日(月)	湯口 瞳氏たく法事 こどもの日
八日(木)	森友 敏裕氏宅七回法事 検診 あすなろ録音日
十一日(日)	平野 克彦氏宅忌明法事
十三日(火)	兵庫教区組相談員研修会 十五日(木) 別院定例
十七日(土)	降幡 謙△△
十八日(日)	宮嶋 千秋氏宅法事
十九日(月)	総代会若林仏具見学会 ↓ 二十二日(木)
二十二日(木)	二十三日(金)
二十四日(土)	合心仏奉仕団
二十五日(日)	渋谷 重夫氏宅忌明法事 兼井 征夫氏宅法事
二十六日(月)	みのりを聞く会
二十九日(木)	あすなろ(編集)
三十一日(土)	西岡 桂子さま忌明法事

ボランティアの 生きない男

わたしは高校を出て、しばらく農業に従事していましたが、思うところあって福祉の世界に入りました。爾来、定年過ぎて今まで、いまはボランティアという身分で養護施設や養護訓練施設のなかでウロウロさせて頂いています。

『勝林寺寺報』二月号で、「自己愛性パソナリティー障害」のある人物をめぐつてのその職場の困惑状態を書いた私の村出身のお嫁さんの文章が出ていました。わたしの毎日の活動場所は、知的障害者の訓練施設ですから、自閉症・ダウントン症・言語や視聴覚の障害、学習障害や注意欠陥多動性障害を持った人など、個々別々。千万の個性が集まっています。

わたしの毎日の活動場所は、知的障害者の訓練施設ですから、自閉症・ダウントン症・言語や視聴覚の障害、学習障害や注意欠陥多動性障害を持った人など、個々別々。千万の個性が集まっています。

少なくともボランティアさんは、病理分析の医者ではありません。教育指導者でもありません。こここの人たち一人一人に寄り添って一緒に障害に生きるそれだけです。

この間、ご法座のあと、わたしの先生



これら障害の一つ一つを、科学的に、医学的に、また心理的・教育的方面から、

障害の病理・原因の追求は必要ではあります。それよりもなによりも、それとの障害のなかで生きている「ひとりのいのち」と出会うことが一番と

外に現れている障害・疾病の現象や

その原因、そのところだけで拘わりありません。二十人そこそこの参加者で、何台かの個人乗用車に分乗。まず「大谷本廟」に納骨参拝の後に、比叡山へお参りする段取りでした。そのとき参加の、いまは亡き人のお姿を、

ひとも（また、福祉施策とも）対立しがちです。

個々の障害の特徴が指摘してある本などをみると、それはみんなこの私が心身のなかに抱えているもので、とても「人ごと」ではありません。

わたしには、いくら探求研究してみても、わからない部分も一杯です。

むしろその分からぬ部分を互いに尊重しながら「とも」として生きていきたいと思っています。

少なくともボランティアさんは、病理分析の医者ではありません。教育指導者でもありません。こここの人たち一人一人に寄り添って一緒に障害に生きるそれだけです。

からこんなはなしを聞きました。

真宗で一番たいせつな「おつとめ」は

正信偈です。百二十句あります。その結び（結勵の文）がいまの私の胸に響いて来ます。

弘経ノ大士・宗師等

（お釈迦さまはじめ仏法を伝えた方たちは、なにを今、告げておられるのか）

無辺ノ極濁悪ヲ拯濟シタモウ

（ほかならぬ、ほとりなき苦と悪に沈むわれらを救うため）

道俗時衆ともに同心に

（僧といわす俗といわす、ここにある人々よ、共に寄り添つて）

唯だ斯の高僧の説を信すべし

（余念なくこの正信偈に讀えられてある方々の説かれたみおしえを信じようではありませんか）

所詮「無辺の極濁悪」のなかにいるわたしたち、共に同心に、互いに、聞くばかりです。

ある方々の説かれたみおしえを信じようではありませんか）

（お念仏のなかで、みんな会えるのですね）

こんな言葉を残して亡くなつた人。

昔、淨土真宗では、家のそばに小さな墓しか建てなかった。文字も刻まぬ墓石でした。

かわりに一年に一度、路銀を出し合い村の代表者が遺骨を携えて本山へお参りし、親鸞さまのお墓のほとりに納めたものです。

昨年、次々に亡くなられた方々のお遺骨を、ご遺族の方々と一緒に大谷本廟にお納め致しました。

（お念仏のなかで、お会いできましたね）

納骨研修旅行 の意義と実際

日程	六月七日(土)
本山→大谷→北陸岡崎	
↓三ヶ根温泉(泊)	
八日(日)	
参加費	海産物ショッピング→とよた博物館→なばなの里
男	33,000円
女	31,000円

（地区の仏社理事・仏婦評議員を通じてお申し込みを）